

## 「RKMアーカイブ通信」の発刊にあたり

RKMアーカイブチーム一同

今年も1年が終わろうとしています、会員の皆様方には益々ご健勝でご活躍のことと存じます。

さて、夏の「RKM会報」においてご案内いたしました「RKMアーカイブ通信」の第一号を作製いたしましたのでお届けいたします。

この通信は「RKM100年史／アーカイブプロジェクト」の活動状況を皆様にご報告することを第一の目的としており、当面は年に1-2回の発行を予定しております。但し、アーカイブ活動の軸は会員の皆様との双方向通信にあると考えておりますので、将来的には内容や発行頻度について順次レベルアップさせていく予定です。

なお、誌面ではどうしても限られたスペースとなり情報量に制約がでたり、機動性に欠ける点があります。これを補うためRKMのHP上に「アーカイブの部屋（仮称）」を設けることも企画したいと考えておりますので皆様ご期待ください。

アーカイブチームとしては、今後、より一層の情報収集並びに情報発信などの活動を展開していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

## RKM100年史／アーカイブプロジェクト 推進委員会 委員長 挨拶

29期 川浪 茂男

先のRKM総会で委員長を仰せつかりましたので、一言ご申し上げます。

委員会の目的は、100年史を取り纏めてRKM活動の永続的活性化に資するとともに、武蔵高・中箏球部現役諸君が部活動を通じて人生の礎を形成する一助ともなることにあると考えます。最終的にはなにか形のあるものを生み出すこととなるのですが、どのようなものとするのかを考えること自体が使命に含まれると認識しています。

RKMでは1977年に50年史誌を発行していますが、コミュニケーションを巡るインフラが当時から大きく拡大していることから、最初から記念誌発行のみに絞らずに進める必要があると考えています。ただし、IT関連の取り込みのみならず幅広く考えてゆく、例えば、アーカイブプロジェクトの

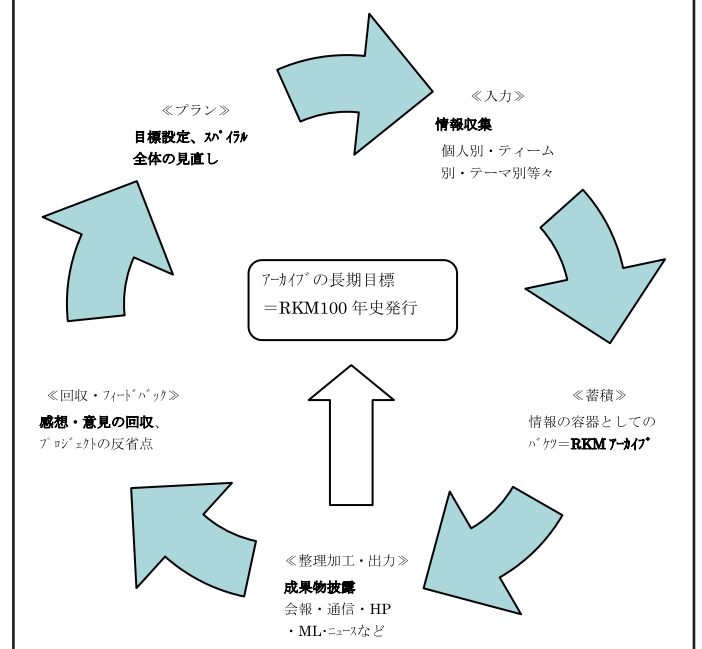
活動自体もその一部となることも考えられるなど、自由な発想を心掛けながら進めたいと考えています。したがって、当初に立てる具体化計画が、取纏め期間中に新しい発想や新たに得られる情報により変わって行くこともあると思います。

どのような形になるのか、さいわい100周年まではかなりの期間があることから、固定観念に陥ることのないようにまずは推進チームのメンバーに自由に幅広く考えてもらい、さらに長幼を問わず会員の皆さんをはじめ各方面からのお力を戴きながら、纏めの方向を探りながら進めて行くことになると考えています。

また逆に、あまりにも時間が過ぎることから、漠然と日数が経過し纏まりが付かないリスクも考えられるので、極力計画的に進めなければならないと考えています。

いずれにしても会員の皆様のご協力を戴かなければ目的に沿ったものとはなりません。プロジェクト推進チームはあくまで「推進」が役割であり、中身を作るのは全会員とご認識いただき、会員の皆さんには纏めに関するご意見のほか、資料・情報の提供、行事への参加など、いろいろな形での具体的なご協力を切にお願いいたします。

## RKMアーカイブの日常的情報流通概念



## この1年間の活動報告

アーカイブチームの活動状況については、夏のRKM会報においても一部ご報告いたしましたが、改めてここで概要をご報告します。

- 2011/09/22 幹事会において「RKMアーカイブ構想」をまとめる。プロジェクトチーム（PT）発足。
- 2011/11/02 PTメンバー全員で畑家に収集された資料に実際に目を通し、今後の資料の分類整理方法の大枠を決定。同時にスキャニングを試行。
- 2012/03/10 第二回PT（データベース作業部会）アーカイブデータベース構築、データベース保管場所はドロップボックスとすることを決定。
- 2012/05/14 第三回PT（若手OBを招いて）世代間で共通するテーマは何かについて討議。①畑バス

- ケットと山崎バスケットの接点、②チームの特徴（身体的特徴、技術的特徴など）、③合宿場所、④フォーメーション変遷、などが適当ではないか、との結論
- 2012/06/12 RKM総会にて「情報収集アンケート」実施
- 上記討議に基づきアンケート実施（別項ご参照）
- 2012/10/24 RKM拡大幹事会にて「RKMアーカイブ通信」発刊決定
- RKMアーカイブの日常的情報流通概念について、上図のとおり整理

## 2012年RKM総会での「情報収集アンケート」の内容と結果について

アーカイブチームではプロジェクト活動の一環として色々なテーマ・切り口で情報収集を試みています。ここでは、以下に、2012年6月11日の「RKM総会」の会場にて実施したアンケート結果をご披露します。

Q1. チーム(学年)で得意としていたオフェンス・フォーメーション(名)は何ですか？

- ダブルポスト(46期) ○クロスポスト(46期) ○ダブルポスト(29期)  
○走って行こう(23期)・・・

Q2. チーム(学年)で得意としていたディフェンス・フォーメーション(名)は何ですか？

- 三面ディフェンス(オールコート&ハーフコート 46期) ○3-2ゾーンプレス(28,29期) ○FWセット<3人>DFセット<2人>アイスホッケー方式(34期) ○2-3ゾーン(23期、41期) ○T(となり)ディフェンス

Q3. チーム(学年)のセオリーポイントを教えてください

- 上から来た男たち(岡、浜中)が上手かった(23期)  
○ディフェンスをしない、シュート名人(外山雅一)がいた  
○とにかく速攻(リバウンドを取ったら前に投げる)

Q4. チーム(学年)メンバーについて教えてください

(1) 最高身長者

高原洋太郎(48期、187)、佐室有志(29期、179)、鹿子木雅(36期、189)、鹿子木基員(27期、173)、西室泰三(28期、183)、石山徹(42期、190)、浜中貞一(24期、?)、東祐太郎(80期、188)、大熊昭晴(45期、183)、篠崎匠(85期、190)、作山克也(85期、187)

(2) 最高ジャンプ力者

岩崎義郎(28期)、渡辺栄三(24期)、石原圭祐(80期)

(3) 怒られ役だった人

鳴海篤志(48期)、本多正孝(47期)、石川昭(30期)、西室泰三(28期)、石山徹(42期)、澤田佳宙(80期) 時任崇聡(82期)

(4) OBになっとうまくなった人

村松正實(23期)

Q5. 合宿はどこでやりましたか？

- 日立戸塚、○日立国分、○桐生、○秋田大曲高校、○四国三本松(12月33日までやりました。その前に新潟三条高校に呼ばれて体育館開きの試合でインターハイ決勝の雪辱をはたしました)、○四街道(S29年、戦時中の戦闘機の格納庫に床をはった体育館だった)、○松本美須丘(松本深志高と試合)、○新潟新発田(S28年、縦方向にコート二面あり、雑巾がけがきつかった)、○秋田・営林署体育館(S29年、秋田杉の床だが波打っていてドリブル禁止。おかげで徹底的にパスで攻撃することを覚えた)、○市営大宮体育館(S27年、建設途上の体育館で、床にばねが仕掛けられていてボールも体もはずんだ)、○双桂寮(S22年、ひもじかった)、○軽井沢(S21年、屋外コート、戦後第一回の夏合宿)

## RKMアーカイブチームからのお願い

2011年11月、2027年の「RKM100年史」の発刊を目指して「RKMアーカイブプロジェクト」がスタートいたしました。私達は、RKMの永年の歩みを、残された資料をもとに、皆さんの声を聞かせていただきながら一緒に作り上げていきたいと考えております。

2027年まで15年ありますが、アーカイブチームではこの15年間を3期間(ホップ・ステップ・ジャンプ)に区切り、最初の5年間(ホップ)は「資料の把握・収集・分類・整理」に重点を置いて活動いたします。

そこで、会員みなさまにお願いが2点あります！

1. 皆さんのお手許の資料等をお貸しください！(もちろん大切な宝物ですから、必ずお返しいたします) スナップ写真やVTRなど映像の類、スコアブックや練習日誌、大会パンフレット、表彰状、新聞・雑誌記事など なんでも結構です。アーカイブチーム/桑水流までご連絡をいただければ、詳細ご相談させていただきます。

2. 「総会時アンケート」(別項ご参照)のようなテーマを中心に更に広く情報収集をいたしたく、今後、期幹事会・座談会を開催していきますので、ご協力ご参集のほどよろしく願います。

2013年1～3月の間を考えていますが、詳細については期幹事の方々と打合せさせていただきます。

【50期までの方々へのお願い】

「50年史」という基礎資料がすでに存在するので、いわば「裏50年史」的な資料や話題を求めています。テーマを絞った座談会の開催も企画しております。

【51期以降の方々へのお願い】

基礎資料の整備から始めることとなりますので、まず期幹事会等の開催を通じて基本情報の交換をさせていただきたいと思えます。



昭和32年インターハイ連続優勝時の集合写真(武蔵学園記念室に展示)  
後列左より34川浪(猛)、34東(定)、33矢作、33平岡、34丸瀬、33小川、34神戸(文)、33梅田  
前列左より34高橋、34成瀬、32吉澤(正) 主将、32印南、32清水(英)、34三井、34榎本